



ラジ・スラーニさん(57)

ガザの人権状況を告発する  
パレスチナ人弁護士



2008年12月から09年1月、イスラエル軍がパレスチナのガザ地区を猛爆し、民間人被害を伝える写真が世界をめぐりました。「あれから一年半。イスラエルの人道犯罪に対し、何の行動もとられていない。結果として、パレスチナに国際人道法は適用されないというメッセージになっている。これは、恥だ」

ガザのNGO「パレスチナ人権センター」代表。今月、日本のNPO法人「ヒューマンライツ・ナウ」の招きで来日し、大学などで現地の実情を訴えました。境界封鎖で、搬入物資は当局が厳しく限定。下水や送電網の再建も進まず、人口の9割が貧困状態といえます。「ガザは社会的、経済的に窒息させられている」

1977年、弁護士資格を取得。何百人ものパレスチナ人政治囚を弁護しました。多くが、イスラエル当局による拷問や、容疑不要の拘禁制度に苦しめられたと告発します。

自身も拘禁、拷問されました。殴り、眠らせず、座らせずに続く激しい取り調べに「毎日50回、死にたいと思った」。パレスチナ当局の人権抑圧を告発し、拘禁されたこともあります。

文・写真 安川崇

しんぶん赤旗 2010年 5月 29日 (土)